

令和5年度 学校評価

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	評価結果と課題
総務	保護者や同窓会との連携強化を盛り上げる式典の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動が衰退せず、再度盛り上がるように努める。 ・コロナ禍でも記憶に残る式典を行う。 ・同窓会長や役員との連絡を密にし、いずみ会総会が盛大かつ滞りなく開催されるよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員だけでなく、他の保護者にも参加を積極的に呼びかける。 ・式典計画について、学年や他分掌と意見交換を積極的に行う。 ・新型コロナウイルス感染について最大限の防止策を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の実施に際し、全保護者への周知を呼びかけたが、PTA役員以外の参加については思うような参加が得られなかった。 ・式典の特性に応じて、学年や他分掌と適切に調整を進めることができた。 ・来年度の総会に向けて適切な感染対策を講じるとともに、会の円滑な実施を図ることの調整を適切に行うことができた。
教務	新学習指導要領の調査と研究及び学校設定科目の研究	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な教育課程の実施のため、学校設定科目を早期から研究する。 ・新学習指導要領の適切な実施に向けて調査や研究を行い、観点別評価について定着できるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定科目について、教科で早期から検討することを依頼する。 ・教科主任会を通じて、教科間での共通理解のもと、観点別評価について理解を深める。 ・県実施や外部機関実施の研修などへ積極的に取り組むよう各教科に呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科主任の協力のもと、早期から検討することができ他教科とも情報共有が図れた。 ・毎週教科主任会を実施し、各教科間の意見交換等ができた。また、他教科での観点別評価について情報を共有することができた。 ・県実施や外部機関実施の研修などへ積極的に取り組むよう各教科に働きかけ、多くの研修会へ参加することができた。
図書視聴覚	知識を深め、教養を高める図書館を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・時節に合った展示や人物に焦点を当てた展示を計画する。 ・生徒の視点に立った図書の選定を実施する。 ・学校HPの円滑な維持運営を行う。 ・図書委員を中心に据えたイベントを計画する。 ・視聴覚機器の充実のための機器を積極的に購入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会を定期的に開催し、図書委員を中心とした展示や企画展を行う。 ・図書委員を通じて生徒が読みたいと思う本の集約を行う。 ・学校HPに図書館に関する情報、「新着図書の紹介」や「図書館の企画」等掲載する。 ・図書委員会を通じて通年のイベントを計画し実施する。「図書館だより」及び「図書館報」を発行する。 ・タブレット端末に対応した周辺機器を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に図書委員会を開催することができた。一方で、時節にあった企画展示の実施については不十分であった。 ・できる限り生徒及び職員の希望に沿った様々な種類の図書の選定ができた。 ・本年度から学校HPは外部委託となった。更新形態及び申請方法等、一年かけて職員間にある程度、理解してもらえたと実感している。 ・図書委員が中心となって「ディズニー40周年」に関する図書館企画展を計画し、実施することができた。 ・今年度は予算の関係もあり、図書館システムのバックアップのための周辺機器を整備することができた。
生徒指導	社会常識を身に付けさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の生徒指導を通して社会のルール、マナーや常識を理解させ、正しく行動ができるよう指導する。 ・社会(ビジネス)で必要とされる資質である挨拶・言葉遣い・時間の管理等について学年と連携しながら取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が在学中に成人を迎えることから、家庭との連絡を密にとり指導する。 ・生徒自身が、挨拶・言葉遣い・時間の管理等の必要性を認識し、行動に移せるように、日頃の生徒指導を通じて地道に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の声掛けを大事にして、主権者教育を通して18歳成年に対しての指導を積極的に行っていくことが必要である。 ・粘り強く声掛けをして、学年指導部の先生を中心に連携しながら取り組むことができた。
生徒会	学校行事の充実と円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で情報を共有する。 ・生徒会執行部を中心とした、生徒主体の学校祭を実現する。 ・生徒が主体的に取り組めるように、適切な役割分担を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会部会を通じて、多くの職員の意見を取り入れ、共有する。 ・委員会を開催し、生徒会執行部とクラスの意思疎通を図る。 ・参加意識をもたせるために、一人一つの役割を担うような仕組みを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒部会を定期的に開催し、情報共有をすることができた。 ・会議を開催できない委員会があった為、委員会運営の見直しが必要である。 ・役割の偏りが出てしまったので、再検討が必要である。
進路指導	学年進行に応じた進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・早期からの進路実現に対する意識付けを行う。 ・適切な情報提供を行う。 ・進路行事の情報発信を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年と連携を密にして進路行事を実施する。 ・企業や進学先と積極的に情報交換を行い、生徒に情報を提供する。 ・進路行事について学校HPを活用して、積極的に情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の進路指導部を中心に、学年と協力し、進路行事を進めることができた。 ・求人票の電子化を図り、学校だけではなく、家庭でも閲覧が可能となった。 ・情報発信があまりできなかったため、来年度積極的に取り組みたい。
保健厚生	学校保健活動の充実、生活環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察の実施を徹底させる。健康等に関する情報提供を充実させる。 ・学校施設の安全を確保し、環境衛生の維持に取り組む。 ・学校全体で組織的に感染症対策に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察により生徒の心身の状況を把握し、情報共有をする。また、必要があればスクールカウンセラーと連携を図り、迅速に対応する。 ・安全点検、環境衛生検査等の結果を活用し教育環境を整える。 ・学校医、学校薬剤師と連携し、保健管理体制を整備し、学校全体で感染症対策に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の健康観察は、年度途中での変更があったため、情報共有がうまくいかず、課題が残った。 ・学期に1回の安全点検、環境衛生検査も予定通り実施することができ、環境を整えることができた。 ・定期的に学校医、学校薬剤師より助言をいただき、学校全体で感染症対策に取り組むことができた。
商業科	新カリキュラムの作成と授業改善 ICT機器の運用	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス探究プログラムに対応した新カリキュラムを編成する。 ・科目打ち合わせや科目担当者会を細かく行い、担当者間の連携を深め、授業・評価改善を行う。 ・観点別評価についての、改善・実施に向けて取り組む。 ・ICT機器の運用を連携して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議で深い議論を行い、より良い成果を出すために、学科主任等で協力して準備を入念に行う。 ・教務部と連携して、新しい生徒指導要領の様式を踏まえた評価観点や評価方法を検討する。 ・ICT機器の運用を商業科を中心として取り組み、授業外でも積極的に使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議が行えない時は回覧を利用する等の情報共有をすることができた。 ・まだまだ評価に関する部分で齟齬があるので共通理解を深めていきたい。 ・ICT機器の運用は、授業内外で日常的に取り組めるようになった。
生活文化科	見通しをもった学科の立ち上げ及び、特色・魅力ある学科の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した学科運営の地盤づくりとして、担当者間での分担と協働、各分掌や学年との連携に取り組む。 ・学科を運営していくなかで生徒の実態を把握し、それに応じて学科の運営計画を調整・改善する。 ・3年間を通して生徒に醸成すべき能力を、授業を中心として積極的かつ適切に意識させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短期的ではなく、今後の展望を見据えた学科の立ち上げを意識して実施する。 ・実施した取組を生徒・教員ともにモニタリング・フィードバックして改善につなげる。 ・生徒に対する取組は、課題を明確にすること、主体性をもたせることを両輪として実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コースの系統に沿った専門科目の授業内容や、校内連携、外部との連携について学科内で協議、共有することができた。 ・適宜振り返りを活用し、柔軟に授業内容の改善を実施した。 ・家庭学習が授業内容の定着につながるため、次年度に向けて粘り強く取り組むためのはたらきかけを継続していきたい。